

平成 27 年度 第 2 回富良野市総合教育会議 会議録

開催年月日	平成 28 年 2 月 15 日 (月) 開会：午後 1 時 00 分 閉会：午後 2 時 30 分		
開催場所	富良野市役所 市長応接室		
出席者	市長	能登芳昭	
	教育委員長	吉田幸男	
	教育委員	津山正樹	
	教育委員	山田淳二	
	教育委員	菅野義則	
	教育長	近内栄一	
欠席者	なし		
事務局等出席者	富良野市教育委員会		富良野市
	教育部長	遠藤和章	副市長 石井隆
	学校教育課長	大内康宏	総務部長 若杉勝博
	社会教育課長	稲葉武則	企画振興課長 西野成紀
	学校教育課管理係長	竹下幸志	
議題	(1) 文化・スポーツ行政の市長部局への移管について (2) 富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)について (3) 平成 28 年度教育関係予算について (4) 教育を取り巻く課題についての意見交換 (5) その他		
傍聴人	なし		
報道機関	なし		

議事の経過

開会 午後 1 時 00 分

遠藤教育部長

ただ今より平成 27 年度第 2 回富良野市総合教育会議を開会いたします。
開会にあたりまして能登市長よりご挨拶をお願いいたします。

能登市長

お疲れ様です。第 2 回富良野市総合教育会議のご案内をいたしましたところ、お忙しいところお集まりいただき、このように協議・懇談ができることをうれしく思います。今回 2 回目ではありますが、総合教育会議というのは、市長部局と教育部局が一体となって教育行政を推進していくことを目的としております。共通の認識を持つということが、この会議の大きな意義だと思っております。
さて今日は、昨年の 3 月議会の一般質問において、文化・スポーツ行政については、富良野市全体で取り組む必要があるのではないかとのご意見をいただいたことか

ら、一年をかけて各部局と協議を重ねてきたところで、あわせて、複雑多岐になってきている福祉部門の対応のため、この4月から機構改革の実施を予定しておりますので、その内容についてご説明いたします。なお、これに先立ち、平成27年度より子ども未来課で所管しておりました学童保育センター等の事業を教育委員会で執行していただいているところで、各委員のご意見を拝聴しながら、なお一層推進していきたいと思っております。

また、富良野市の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましても、3月に提出することとなっており、各委員にご承知おきいただきたく、ご説明申し上げたいと思っております。

さらに、過日、新聞報道がありました。平成28年度の教育予算につきましてもご説明いたします。

加えて、教育を取り巻く諸課題についても意見交換をさせていただきたく、日程に据えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げまして、開会のご挨拶といたします。

遠藤教育部長

続きまして、吉田教育委員長よりご挨拶をいただきます。

吉田委員長

本日の総合教育会議は、昨年5月に続き2回目であります。昨年4月より教育委員会制度が改正されまして、新たな教育行政が始まるなか、能登市長の話しにもありましたとおり、いろいろところで転換期を迎えているのかなと思っております。少子化が進むなか、子ども達に対する教育委員会として又は大人として、地域として果たす役割や責任が大きくなるだろうと感じております。市長部局の話もありましたが、子ども達にとっては、費用対効果だけでは測れない大切なものもあるかと思えます。それをくみ取っていただき共通認識が図れるよう教育委員会も協力し、今日の会議を有意義なものにしたいと思えます。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

遠藤教育部長

それでは議題に入りますが、ここからは、能登市長の進行により進めて参ります。

能登市長

早速、議題に入らせていただきたいと思います。

1点目として、文化・スポーツ行政の市長部局への移管についてを議題といたします。事務局からの説明を求めます。

若杉総務部長

平成28年度に予定しております富良野市組織機構改革なかで、特に文化・スポーツ行政の移管についてご説明いたします。

全体的な定員管理としては、人口減が予測されますので組織が肥大化しないことを基本に据えておまして、この間、60名程度の職員数を減らしてきております。先だって、議会にも説明しているところですが、平成28年度は、お手元の資料に記載しております5つの考え方を基本とした組織改革を実施することとしており

ます。1つ目は、総合計画や総合戦略の着実な推進、2つ目は市民にとって分かりやすい組織、使いやすい市役所であること、3つ目には、協働のまちづくり推進体制を強化する、それから4つ目に、若干肥大化している総務部、保健福祉部の人員適正化、最後に、文化・スポーツ部門を平成28年4月1日より市長部局へ移管するというところでございます。

特に文化・スポーツということでは、新たに市民生活部を設けます。これは、現在総務部にあります市民課、環境課、新たに設ける市民協働課、ふれあいセンター、山部支所、東山支所をもって組織いたしますが、この中の、市民協働課において文化スポーツ係を設け文化振興や体育振興を進めていこうというものです。あわせて、市民協働課には、町内会・防犯・交通・消費生活といった市民や町内会と密接に関わる部分を担当する交通市民協働係を設置し、文化スポーツ係と一緒に協働のまちづくりを進める体制を強化したいと思っているところであります。

その他の部分につきましては、保健福祉部の課の再編や企業誘致を積極的に推進するため、企画振興課に担当職員を配置していくといったところが、大きな変更点であります。

いずれにしましても文化・スポーツ行政が、これまで以上に振興が図られるよう、またサービスが低下しないよう努めてまいりたいと思っております。以上です。

遠藤教育部長

市長部局から教育委員会へは、すでに昨年7月から児童センター、児童館、学童保育センターを移管しております。特に学童保育センターについては、小学3年生までが対象でありましたが、法律の改正により小学6年生までが対象となりましたので、この3月の議会において条例を改正し、富良野市においても小学1年生から6年生を対象とするよう準備を進めているところであります。以上です。

能登市長

文化・スポーツ行政の市長部局への移管についてと教育委員会に移管する業務についてご説明いただきましたが、この件について、ご意見・ご質問がございましたら承りたいと思っておりますがいかがですか。

山田委員

学童保育について、児童数が増えることにはなりますが、どのような人員体制になりますか。それとも現状の体制で実施するのですか。

能登市長

高学年になると少年団活動等に参加する子が多いですから、対象者全員が学童保育を受けるわけではないですね。

稲葉社会教育課長

現在、平成28年度の学童児を募集中なのです。4から6年生については、極端に増える状況にはないと思われませんが、児童厚生員や放課後支援員については、これまでの3名体制から4名体制にするよう、準備しているところです。

能登市長

他にございませんか。

《各教育委員より「なし」の声あり》

能登市長

無ければ、次に進みたいと思います。

能登市長

それでは、2つ目、富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)についてを議題といたします。説明願います。

西野企画振興課長

お手元の資料にもとづき、富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)の概要と教育部門に関わる事業について説明いたします。

この総合戦略は、平成26年11月に国において、まち・ひと・しごと創生法が定められ、これにもとづき平成27年度中に全国の市町村が総合戦略を作成することとなりました。現在の日本の人口は、1億2000万人程ですが、2050年には9700万人台になると予想されております。さらに2100年には、5000万人を下回ると予想されており、国としても、早急な人口減少対策が必要であるということから、すべての市町村に計画の策定を義務付けているものです。

まず、富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略(案)の全体的な概要についてですが、資料2ページ下段に全体的なイメージをポンチ絵に示しております。富良野に仕事をつくり、仕事があることで人を呼び込み、それによりまちが活性化する、このような好循環による相乗効果を期待した総合戦略となっております。

体系的なものについては、3ページをご覧ください。3つの柱を掲げておりまして、基本戦略の1つ目として、「「ひと」をつなぐ富良野戦略」、2つ目が「「しごと」をつくる富良野戦略」、3つ目を「「まち」を育てる富良野戦略」としてしています。このなかで、教育部門に関しましては1つ目の「「ひと」をつなぐ富良野戦略」で、「次世代の子どもたちへつなぐ」としており、具体的な数値目標としては、5年後の合計特殊出生率を現在の1.44人から1.8人とすることを掲げております。また、資料3ページ下段に各基本戦略の個別戦略を記載しておりますが、「「ひと」をつなぐ富良野戦略」の個別戦略として3つあるうちの「②妊娠・出産・子育てを地域社会全体で支援する」「③地域資源を活用した環境教育と郷土愛を育むキャリア教育、人材育成を推進する」が教育に関係した戦略であります。

資料の8ページをご覧ください。「個別戦略② 妊娠・出産・子育てを地域全体で支援する」について記載しております。この戦略の背景といたしましては、図4をご覧ください。出生数が年々減少していることがわかります。平成22年に生まれた子どもの数が215人だったものが、平成26年に至っては、143人まで減少しております。そこで、昨年4月に無作為に抽出した39歳以下の男女にアンケートを実施した結果が図5です。子どもを産まない・産めない理由としてもっとも多いのが、「子育てや教育にお金が掛かりすぎるから」と回答した方が73%以上ということ

で、圧倒的に多いという現実がありました。このようなことから、子育て・教育に関する経済的支援が必要だろうと考えているところです。具体的な事業としましては、9ページをご覧ください。子育て支援に関する事業を掲載しておりますが、ほとんどが平成28年度からの新たな事業であります。特に教育分野といたしましては、「第3子以降多子世帯出産祝金給付金事業」「第3子以降多子世帯就学助成事業」を平成28年度予算に計上したところであります。また、子育てに優しい街並みや環境を作ってほしいという要請もありまして、図書館におけるオムツ替えや授乳スペースを設置する「図書館授乳室整備事業」も予算計上しているところでございます。

10ページに「個別戦略③ 地域資源を活用した環境教育と郷土愛を育むキャリア教育、人材育成を推進する」を掲載しております。まず、図6をご覧ください。この図は、平成25年度の男女別・年齢別の転入数から転出数を引いた数のグラフです。見方としては、0（ゼロ）より上は転入数が多く、0（ゼロ）より下は転出数が多いとなります。このグラフによりますと、特に15～19歳において男女合わせて55人、つまり、高校卒業時に多くの方が富良野から転出しているということです。この世代の人達を大学や専門学校等を卒業した際に、いかに富良野に戻ってきてもらうか、いかに郷土愛を育むかということが議論の中心として、この戦略を記載しています。中段に、主な施策として5点あげています。1点目が、「恵まれた森林資源を活用し、市内小中学生を対象に森林環境教育を推進する」です。これは、1月11日の道新で「東大演習林開放」と報じられましたが、その取り組みのひとつでございます。2点目「子どもたちに「演劇のまち富良野」を体感し、演劇的手法を活用したコミュニケーション能力の向上を図ります」、3点目「富良野を愛し、将来、「ふるさと富良野」に心が向く小中高一貫キャリア教育の推進及び人材育成を図る」、4点目「富良野市育英基金奨学金償還免除による地元Uターン就職を推進する」、5点目「グローバル化に対応するため、豊かな語学力、異文化理解の精神等を身につける場を提供する」、以上5つ掲載しております。5年後の目標としまして、東大演習林の利活用による森林環境教育学習プログラム参加校を年間15校、さらに、奨学金の免除者が5件となっております。具体的な事業については、11ページに記載しています。「森林学習プログラム推進事業」「学校教育コミュニケーション教育推進事業」「ふらのまちづくり未来ラボ推進事業」は新規事業です。また、「育英事業」につきましても制度を拡充したうえで予算計上しているところでございます。以上です。

能登市長

富良野市まち・ひと・しごと創生総合戦略の教育に関する内容について、ご説明申し上げます。国の資産活用ということで、この2、3年の間、東大演習林の活用について取り組んできたものの、なかなか応じてもらえませんでした。やっと少し応じてもらえるようになってきました。将来は、小中学生ばかりでなく、一般の人たちにも開放したいと考えているところです。実施するとなりますと、ガイドさん達が必要になりますから、平成28年度で400万円程度の予算を確保し、東大演

習林の元職員などを中心に、若い人もガイドとして育成し、人づくりをすることとしています。これが、交流人口を増やす大きな要素にもなると考えますし、学習することで、世界観を広げてもらえることになります。また、外国人の来富も期待できるのではないかと思います。さらには、移住や定住にもつながる要因になってくる可能性もあります。将来展望を考えたとき、東大演習林との連携協定が富良野の大きな前進に寄与するだろうと考えているところです。全国の小中高校生が修学旅行で北海道に来た時に、今まで以上に富良野に寄るといことも期待できるのではないかと思います。

津山委員

小中高ふるさとキャリア教育に私も近内教育長も会議のメンバーとして呼ばれているのですが、地元に戻ってくる子どもたちをどのようにして増やしていくかということがテーマで、いろんな立場の方々が、いろんな意見を出し合っています。連携する高校が緑峰高校なのですが、富良野高校も入っていれば、もっと良いのではないかと考えています。もちろん緑峰高校も園芸科があったり、カレンジャーの取り組みがあったりと、富良野への郷土愛を育む取り組みを頑張っていたいただいており、これからの発展のためのキーになるのではないかと考えています。私の子どもたちも旭川の高校に行ってしまう、今は、東京と弘前の大学に進学していますが、卒業後は戻ってこないのではないかと考えています。それは、富良野が嫌いなわけではなく、富良野が好きなのですが、就職や仕事となると不安があるようです。私の仕事の業界の将来はどうなっていくのか、エネルギーはどうなるのか、そんなことまで考えているようで、このようなことも含めて、教育だけではなく、いろんな意見を出し合い事業ができればいいと考えています。総合的に考えなくてはならず、これからのまちづくりにとって、子どもたちをどうやって富良野に戻すかが、とても重要で大きなテーマだと思っています。

山田委員

やはり、地元働く場所がなければ、地元へ落ち付けと言っても無理ですね。そのあたり、企業を誘致するというのも重要ですね。

能登市長

そうですね。内陸部でも企業経営に支障が少ないIT企業なども考える必要があります。また、現在、複数からホテル等の建設の話がきているのですが、こういうところも就職先として見込めるのではないかと考えています。そうすると、働き場所ができ、結婚し、出生率を高めることに繋がると思います。農業関係でいえば、後継者や新規就農者の支援に力を入れています。農業の担い手を育成するには時間が掛るため、研修期間を乗り越えてられない人も出てくるかもしれませんが、これを取り組まなければ、人口も増えないし基幹産業も衰退してしまいます。新規就農には、それらを受け入れる受け皿も必要なのですが、東山地区において、受入れのための協議会を作っていました。これにより、若い人が東山に定住するための下地ができました。また、東山の30～40歳代の方達で「樹海の里盛り上げ隊」を作って活動も始めたようです。さらに、東山に嫁ぐお嫁さんも少しずつ増えている

ようで、楽しみな状況も生まれてきています。

吉田委員長

農業に関しては、次の担い手に託すための何かを考えていかななくてはならないと思います。担い手センターができたことですべて解決するわけではないので、富良野のブランド力を活かしながら、人を呼び込んだり、働く場所を作ったりとアピールするものを早く見せていかなければならないと思います。

能登市長

新規就農ということでは、既に東山地区に4名程就農しています。地道ですが、この様な人たちを増やしていかなければなりません。

山田委員

志を持って地域に入った人たちを支援して、成功させるということが重要ですね。

吉田委員長

優良事例がどんどんできれば、その人たちが引っ張って行ってくれると思います。地域も市も皆で受け入れる環境づくりをしていかななくてはなりません。また、農家の親も含めて、子どもたちに農業の良さや楽しさをもっと教えていかななくてはなりませんね。

能登市長

中心市街地においても多数の移住者が店を経営しており、空き店舗が無いわけではないが、他市に比べると数段少ない状況です。

菅野委員

そういうお店と農家を応援する仕組みを作れないのでしょうか。

能登市長

既にそのような仕組みもありますが、これからは、さらに質を高めていかななくては、TPPの問題もありますので外国産の物と闘えませんが、逆に、品質が良く、安全な物であれば、外国にどんどん売れるでしょう。東京の大手が、シンガポールで日本食の店を開店させるのですが、富良野産の物が、そこで使われることになりました。魚は厚岸産、肉は十勝で、オール北海道です。富良野産の野菜が、安全でおいしいとなれば、取引も増えるでしょう。相手から、富良野産を指名されるということは、品質もさることながら、富良野の知名度やブランド力が高いということでしょう。ありがたいことです。

津山委員

富良野の子たちが各方面で活躍してもらえよう、教育もそうあるべきですね。

能登市長

市では、地域医療に興味のある医学生に対し奨学資金制度を実施しており、富良野出身の子も数名おります。2年後くらいから医師免許を取得する人が出てきますので、その人たちが富良野で努めてくれることを期待しています。学生のうちから働きかけなくては、地方の医師確保は非常に困難な時代となっています。地方で人を支援するというのは、時間もお金も掛ります。

能登市長

他にご意見、ご質問等ございませんか。

《各教育委員より「なし」の声あり》

能登市長

総合戦略の教育関係につきましては、ご説明した内容で進めますので、ご理解賜りたいと思います。

能登市長

つづいて3点目、平成28年度教育関係予算についてを議題としたいと思います。

遠藤教育部長

議案の3ページをご覧ください。

2月12日に、平成28年度予算案が発表されました。その中の教育関係で、新規など主なものを記載しております。

まず、鳥沼小学校の平成7年に建築された屋内運動場の屋根外壁の塗装工事を実施していきます。

それから、西中学校グラウンドの南側に防球ネットを設置いたします。

次に、学校教育コミュニケーション教育推進事業です。演劇手法を取り入れたワークショップを全校で実施しながら、子どもたちのコミュニケーション能力の向上を図っていくものです。これについては、総合戦略事業でもあります。

育英基金貸付事業の拡充であります。第3子以降の高校入学準備金について貸し付け対象とするものです。これも総合戦略事業でございます。

それから、学力検査実施事業です。小学2年から6年を対象とした学力検査を実施していきます。

就学援助費については、拡充いたします。現在の対象経費にPTA会費、クラブ活動費、生徒会費を追加し、予算計上しているところです。

新規といたしまして、第3子以降多子世帯就学助成事業です。先程の総合戦略でもご説明したとおり、第3子以降の人入学児童を対象に一人5万円を助成する事業であります。

次に、新規のふらのまちづくり未来ラボ推進事業でございます。子どもたちが、自ら参加できる地域社会づくりの実践を通じながら、郷土愛を育む人材育成を図っていくもので、総合戦略事業であります。

文化会館エレベーター設置工事ではありますが、市民から多数要望を寄せられていました文化会館のエレベーターを設置し、高齢社会への対応と利用者の利便性向上を図るものです。

市制施行50周年記念といたしまして、プロ野球イースタンリーグ公式戦開催事業補助金を計上しておりますが、すでに、日本ハム対ヤクルト戦が8月13日に開催されることで決まっております。

次に、体育施設整備事業であります。陸上競技場は、第4種公認認定を受けており

ますが、更新年を迎えることから、再公認に向けた補修などを行うものです。つづいて、森林学習プログラム推進事業費であります。先程からお話に出ております東大演習林の活用に伴うもので、文部科学省の委託事業でもあり、総合戦略事業として取り組んでまいります。

ブックスタートプラス事業ですが、現在、7ヶ月検診時に絵本の配布等を実施していますが、加えて、1歳6ヶ月時にも絵本の配布等を行い、子どもの読書を推進するものであります。

最後に、図書館授乳室整備事業であります。図書館内に授乳設備を備えた子育て支援スペースを整備するものです。

平成28年度の教育費当初予算は、5億5396万4千円の予定でございます。平成27年度の当初予算は、7億5400万3千円で、2億円程下がっておりますが、概ね、文化・スポーツ関係予算が市民生活部に移管された分であります。

以上、教育関係予算の説明であります。

能登市長

平成28年度の教育関係予算についてご説明いただきましたが、ご質問、ご意見等ございませんか。

能登市長

学校においては、学力テストを実施するんですね。

近内教育長

現在実施している全国学力学習状況調査は、日本全国で小学生で言えば6年生を対象に一律に行われています。目的としては、その結果を指導や学習環境の充実に役立てるということですが、現実には、小学6年生が4月にテストを受けて、結果が出るのは9～10月です。残りの半年では、指導内容等を改善するにも時間的に難しいものがあります。そこで、学年ごとに一律の調査を行い、その結果を次の学年以降に反映させていきたいと思っております。全国一律のテストを実施している業者が何社もありますから、2年生から6年生を対象に、富良野にあった形のものを導入して、それぞれの学校やクラスまたは個人の強みや弱みを確認しながら、現場の指導改善や学習習慣の定着に結び付けていこうとするものです。特に小学生の時期というのは、学習習慣の定着のためには重要な時期でありますので、学校だけでなく家庭とも共通認識をもって進めていきたいと思っております。

能登市長

富良野高校も単位制になって、昨年は北大現役合格者がでたとのことなので、良い先生にたくさん来ていただき、どんどん国立大合格者がでてほしい。でも、学力に加えて、人間性をかわれて推薦で進学する生徒も多くなってきていますね。旭川医大の看護科には、富良野高校から推薦で入学している生徒が多数います。旭川や札幌の高校に進学しなくても国立大学に進学できるようになって、とても良い傾向になってきています。

近内教育長

ちなみに、今年の富良野高校への出願状況は、今のところ1.0倍を超えている状況

です。これまで旭川に向いていた生徒が、地元に戻ってくる状況が少なからずあるのではないかと思います。

能登市長

以前、山部住民の方から、山部から旭川の高校へ通学するにあたりJRのダイヤが不便であるため、ダイヤ改正を働きかけてほしいというご意見をいただき、JRに申し入れしましたが、始発列車の運転手が富良野に宿泊しないこと、線路が単線であることから通学に合わせたダイヤにするのは、難しいとの回答でした。

山田委員

文化会館は、いつ建てられたのですか。

能登市長

昭和46年建築です。

山田委員

将来的に、いつごろ建て替え等を予定しているのですか。

能登市長

平成32年までに計画を策定したいと思っています。
多額の経費が掛かることですから、市庁舎と文化会館の複合施設とすることも考えるべきと思っています。

山田委員

文化会館より市庁舎の方が古いのですか。

能登市長

古いです。昭和43年建築です。

能登市長

学校については、ある程度整備したので、当面大丈夫でしょう。

吉田委員長

学校については、立派にしてもらいました。先日、上川南部の教育委員研修が富良野であり、東小学校を視察したのですが、他町村の教育委員も感心していました。それから、森林学習プログラム推進事業費の424万3千円なのですが、具体的に学校教育の中で、どのような形で取り組んでいく予定なのでしょうか。

近内教育長

今月から、プログラム策定検討会議を開催し、小学生向け、中学生向け、それぞれどのようなものが良いのか検討し、新年度からそれらの一部を試行しながらプログラムを作り上げていこうとしています。あわせて、ガイドの養成について、東大演習林のOBにも協力いただいているのですが、地元のNPOにも参加いただいて人材の確保や育成の枠組みを作っていこうと考えています。既にご承知のとおり、樹海や山部や麓郷では、総合的な学習等で一部取り入れています。

吉田委員長

東大演習林の一部を開放しているということですね。

近内教育長

はい。それをしっかりとしたプログラムにして、市内だけでなく、市外からも呼び

込めるようにしていこうというものです。あわせて、社会・成人教育にも発展させられるようにしていきたいと思います。

吉田委員長

難しかったものが、せっかくここまで進んできたのですから、5年後、10年後を見据えて、富良野の特色を活かしたいですね。

能登市長

今までの花だけではだめですね。例えば、サイクリング。美瑛までの自転車道を設定しました。

吉田委員長

環境にも健康にも良いですね。

津山委員

流行っていますよね。いろんな人が自転車に乗っています。

能登市長

富良野のアースライドに、毎年1,000人程度の人が来ています。途中で、富良野の農産物も食べられたりして大変好評です。

吉田委員長

そういうことを活かして富良野をアピールし、いろんな相乗効果を生みたいですね。

菅野委員

ふらのまちづくり未来ラボ推進事業について、具体的に決まっているものはあるのですか。

近内教育長

これは市民提案なのですけれども、ふらのまちづくり未来ラボ推進会議というところから、昨年12月にご提案いただきました。地域で関わっているいろんな分野の方々に先生になってもらい、子どもたちを集めて地域のことについて教えるという内容です。具体的には、農業や観光、自然、文化、食などについて、勉強する場を設けていただきます。また、校長会の会長からも提案があったのですが、学社融合の際、講師として派遣してもらえないかという話もありました。そういった人材については、学社融合の枠組みの中で学校に入っただけかと思っています。学校に入っただけということでは、東大演習林の林長もメセナ事業のカリキュラムのひとつとして学校に入っただけのことになりました。地域で活躍しているいろんな人材を学校に派遣できるような体制づくりをしていこうと考えています。

能登市長

予算についてのご質問、ご意見は、以上でよろしいですか。

《各教育委員より「なし」の声あり》

能登市長 それでは、4番目の教育を取り巻く課題についての意見交換に移りたいと思います。

能登市長 最近、教員の不祥事が多いのではないのでしょうか。新聞にもよく載っています。富良野はどうですか。

近内教育長 軽微なものについては、全くないということではありません。過去には、大きなものもあったという経過もあり、一昨年9月に、服務規律についての指針を策定し、各校に示し、しっかり行動するよう指示したところです。しかし、どんな軽微なものでも事が起きたときには、すぐ相談してもらい、情報を提供してもらいということが肝心であるというふうに進めています。

能登市長 現在、富良野では、支援員を19名配置しています。出生率が下がってきているのに、支援を必要とする子供が増えているというのは、どういうことなのでしょう。育児に問題があるのでしょうか。保育所に入ってくるこの中にも多数います。大変なことだと思っています。

近内教育長 情緒の発達遅れみたいなものが、知的な部分に影響したり、心身の総合的な発達に影響したりしているようです。核家族や共働き、或いは片親などから、家庭の中で人にもまれたり、コミュニケーション能力を高めるといったことが、昔に比べると少なくなっているのではないかと思います。そして、そのまま幼稚園や小学校に上がってくると、そこで問題が明らかになってくるということのようです。

山田委員 親が過保護になりすぎて、子どもも芯を通すところが無くなってきているように感じます。

能登市長 朝ごはんを食べない子も結構いるようですし、学校給食で、はじめて味噌汁を飲んだ子がいるという話も聞いたことがあります。

吉田委員長 少子化なのだから、親はいきとどいた家庭教育や育児ができるはずなのに、そうはなっていないようです。例えば、小学校入学時に、自分の名前も書けない子が入学してくることがありますから、私たちの時代の物差しで測っても測りきれないですね。昔から、母子家庭などはありましたが、ここまでの状況にはなっていませんでした。親としての責任を果たせない親が、いっぱいいるのかもしれない。

山田委員 負の連鎖のように、支援が必要な子の親も、子供のころ同じような境遇にあったということもあるのではないのでしょうか。

吉田委員長 昔のように、爺ちゃんや婆ちゃんがない家族構成が多くなってきて、そこから教

えられるということがないまま、ある意味偏った形で育ってしまうケースがあるのかもしれないですね。小学校に入ると、教育、地域、行政と言われるが、根本は、家庭教育だと思うのですが。

能登市長

家庭教育を含めた支援をしていかななくてはならないかもしれないですね。

吉田委員長

教員の資質も問われますが、親の資質も問われますね。

津山委員

福祉と教育が、密接に協力し合っていかななくてはならない時代なのだと思います。

吉田委員長

学力の向上が求められているなかで、昔から宿題や予習、復習の時間をとることが大事ですが、今は、スマホやゲームなど社会的に状況が変わってきていて、そのあたりは、家庭での指導のウエイトのほうが高いのですが、教育委員会が家庭に干渉するのは難しい。

能登市長

加えて、離婚が多いように思います。これも影響しているのではないのでしょうか。

菅野委員

これらの現状を、どうやって家庭に伝えるかが難しいですね。委員長が言うように家庭に入り込むには限界がありますし。

吉田委員長

PTA 活動等に積極的な家庭には現状を伝えやすいのですが、そうでない家庭が問題です。

山田委員

PTA もそうですが、参観日などにも参加する親はだいたい決まっていて、広がりがないように思えます。

菅野委員

人の子をあずかるわけですから、あずかる方には当然責任がありますが、あずける方にも責任があることを理解しなくてはなりません。

吉田委員長

育児放棄や虐待など、あつてはならない事件も頻繁に起きています。

近内教育長

ブックスタート事業をなぜ始めたかという、赤ちゃんの時から本をとおしてお母さんが子どもに声をかけていくとうことで、子どもたちの心の発達を促すということと、本をとおして会話につなげていくということを目的にはじめました。ここで、本を読む環境が整ったお母さんたちは、図書館に子どもを連れてきています。図書館でお話し会に参加してもらおうと、お話をしてくれる年配の方たちと子育ての情報交換の場にもなってきました。このことから、1歳半のときに図書館に来てもらい新たな本を配布して、コミュニティのきっかけにし、子育てをしている人を孤立させない取り組みをしていこうというのが新たなブックスタートプラス事業です。

能登市長 今、スマホ等があり何でも調べられるので、そういうところに出てこない人やスマホを使いすぎる子どもも増えてきています。

菅野委員 中学生でもスマホを持っている割合が高くなってきていて、トラブルや使いすぎが心配されます。また、スマホを持っていないことで仲間外れにされたり、いじめの対象になることがあります。スマホを持たせているのは親ですから、親がしっかり使い方の指導をしていかないといけないと思います。

能登市長 家庭教育はどうあるべきかを、示していく必要もあるかもしれません。また、幼児期の教育についてもどうあるべきか、行政としても検討する必要がありますね。

能登市長 最後に、その他として、皆さんから何かございませんか。

《各教育委員より「なし」の声あり》

能登教育長 無いようですので、以上をもちまして、第2回富良野市総合教育会議を終了いたします。

閉会 午後2時30分